

# デイリー・ジーザス・ニュース #155

## アブラハムの真の子孫は誰ですか?

ヨハネ8章37-40節

37 「あなた方が肉体的にはアブラハムの子孫であることは知っています。しかし、あなた方は今も私を殺そうとしています。私の言葉を守らないからです。 38 わたし自身が父の前で実際に見たことをあなたたちに話しているのであり、あなたたちは父から聞いたことを行っているのです。」

39 彼らは答えた。「アブラハムが私たちの父です。」

「もしもあなたがアブラハムの子孫であつたなら」イエスは言った、「そうしたら、あなたは何をすることになるだろう アブラハムはそうしました。 40 あなたたちは、神から聞いた真理をはつきりと伝えた私を殺す方法を探しているのです。アブラハムはそのようなことをしませんでした。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =<sup>MT</sup>、マーカー=<sup>M</sup>、ルカ=<sup>L</sup>、ヨハネ=<sup>J</sup>、使徒行伝=<sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体**はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

### コンテキストダイジェスト

位置	エルサレムの神殿の庭
タイムライン	9月（31月）
イエスの生涯の文脈	第六段階：イエスの後期ユダヤ教宣教
	B. 仮庵の祭りにおけるイエスの宣教
	神殿でのイエスの2番目の教え：「私は世の光である」
タイトル	v. アブラハムの真の子孫は誰ですか？

コメント：

仮庵の祭りの最終日、イエスの宣教は続き、神殿の庭での教えと議論は、苦い結末へとエスカレートしていました。今日の朗読では、真の「アブラハムの子」とは誰なのかという問題が提起されました。明日の聖書箇所では、私たちの靈的な親子関係に関する問い合わせがさらに深く、究極のレベル、つまり神かサタンかという問題へと深化します。今日、世の光は「真のユダヤ人」、つまりアブラハムの子孫とは誰なのかという問いに光を当てました。

## デイリー・ジーザス・ニュース #155

1世紀半ば、教会の会員と文化的背景には重大な変革が起こりました。教会はユダヤ教における、完全にユダヤ人だけの交わりとして始まりました。イエスはユダヤ人であり、すべての使徒たちも、そして最初の弟子たちも全員ユダヤ人でした。これらの人々は皆、1世紀のパレスチナの文化的背景を共有していました。

その後、使徒行伝1章8節でイエスが命じられたように、福音が「**ユダヤ、サマリア、そして地の果てに至るまで**宣べ伝えられると、異邦人が交わりの中に入り始めました。そこで問題が生じました。新しい信者は割礼を受けてユダヤ人となり、旧約の律法に従うことを誓わなければならなかつたのでしょうか？

現実的な観点から言えば、世界にはユダヤ人よりもはるかに多くの異邦人が住んでいたため、その後50年間で教会における非ユダヤ人信者の割合は着実に増加し、パレスチナ国外の教会の数も増加しました。教会における影響力のバランスは、ユダヤ人のルーツから異邦人の実体へと移行していきました。

この時期、イエスを信じる人々に対する迫害と会堂からの破門が激化し、教会内の異邦人とユダヤ教徒の間の緊張が高まりました。西暦70年のエルサレムの破壊は、この緊張をさらに激化させました。1世紀末までに、信者、教会、そして教会指導者のほとんどが異邦人となりました。ヨハネが福音書を書いたのも、まさにこのような環境の中でした。教会とユダヤ教の関係の問題は、イエスを信じる人々にとって喫緊の課題でした。

聖霊の導きのもと、ヨハネは、イエスが最後の仮庵の祭りの期間中、ユダヤ人指導者たちとの教えや討論の中でこの問題を予見し、どのように対処したかを思い出しました。イエスは、異邦人の信者たちが旧約のもとで割礼を受けたユダヤ人になることを期待していました。イエスは、ユダヤ人と異邦人を等しく三位一体の交わり、すなわち神の家族に迎え入れる新約を定めました。

イエスはこの聖句の中で、人をアブラハムの子孫とするのは、アブラハムに遡る肉体的な血統ではなく、ヤハウエへの信仰、つまりイエスを神の子と認めることによってであり、それが人をアブラハムの子、そしてさらに重要なことに、神の子と認めるのだ、と教えられました。イエスがこう言われたのは、まさにこのことを意味していたのです。「もしあなたがたがアブラハムの子孫であったなら、するとあなたは何をすることになるのかアブラハムはそうしました。」従順という形で表された信仰によって、アブラハムは神の目に義とされました。

教会は1900年の間、主に異邦人の靈的な交わりの場であつたため、今日と明日の朗読でイエスが語った問題は、私たちのほとんどにとってむしろ当たり前のことのように思えるかもしれません。しかし、初代教会においては、それは生死に関わる問題でした。1世紀の信者にとって、教会における態度と実践を、イエスご自身の生涯と教えという確固たる基盤の上に築くことは非常に重要でした。これらの聖句は、彼らがそれを可能にしたのです。

応用：

イエスは、人をアブラハムの子孫と認めるのは、肉体的な血統ではなく、アブラハムの信仰であると教えました。これにより、異邦人とユダヤ人の両方の人々が、父と子と聖霊との靈的な交わり、ひいては互いとの交わりを分かち合う道が開かれました。

## ディリー・ジーザス・ニュース #155

あらゆる宗教的、文化的背景を持つすべての信者が、一つの家族、一つの体、一つの教会として一致して生きるという概念は、イエスの時代にも革新的であり、今日でも変わりません。イエスは私たちすべてを、御自身において一つにしてくださったのです。

イエスに対する私たちの共通の信仰は、今日私たちの多くを隔てる文化的、社会的障壁をどのように克服できるでしょうか。

信者間の一致を促進するために何ができるでしょうか。